

目黒区緑化都市宣言
みどりのまちをつくるちがい

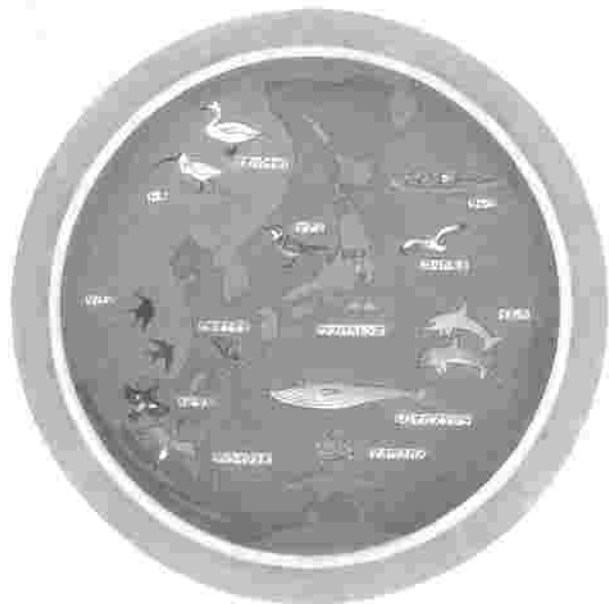
思い出してほしい
わたしたちがみどりの中に生まれ
育ったことを
青い空 木々のこもれ日 季節のささやき
よびかけてる 誰もみな みどりの仲間だと

忘れないでほしい
木も草も 虫も鳥たちもともに暮らす
大切な家族
だから今 かけがえのない 母なる地球を
みんなで分けあっていこう

さあ 始めよう
ひと粒の小さな種をまくことから
大地に根をはり
すくすく枝をのびし
鳥たちがうたい
人びとがやすらぐ
一本の木の種

わたしたちの手で わたしたちの心に
こどもたちに伝える
森をつくらう

1990年10月28日



いきもの情報・自然通信員 募集中

ウグイスが鳴いた!
アオシジメを見つけた!



庭や公園、校庭などで観察した一つ一つの記録がみどりを守り、回復していく貴重な資料になります。年月日、種名(はつきりわからないときは〇〇類、〇〇のなかまとします)、場所(公園名、お庭などの町名番地)、いた環境、個体数などの観察した内容、あれば写真などを、みどり土木政策課みどりの係まで郵便・FAX・メールでお送りください。お送りいただいた方は自然通信員として登録し、年次回結果などをまとめたニュースレターを郵送いたします(無料)。

めぐろのいきもの80選 好評販売中



A5判変形 カラー 176ページ
(目黒区販売物 400円)

区民が投票で選んだ身近ないきもの80種ほか目黒区で見られる動植物計約300種を見やすくカラーで紹介したハンディな図鑑です。
販売箇所は駒場公園和館、駒場野公園自然観察舎、官川公園和館、中目黒公園花とみどりの学習館、目黒区総合庁舎 区政情報コーナー・みどり土木政策課、目黒区歴史資料館、目黒区美術館、国立科学博物館付属自然教育園ほか区内書店商業組合加盟店。郵送販売はお問い合わせください。



United Nations Decade on Biodiversity

国連生物多様性の10年ー自然と共生する社会を目指して
目黒区は生物多様性地域戦略を推進しています



目黒区生物多様性地域戦略
ささえあう生命の輪
野鳥のすめるまちづくり計画

目黒区いきもの住民台帳

ー身近に暮らすみどりのなかまたちー

めぐろの野鳥

List of birds of Meguro City



区の鳥 シジウカラ

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性 ささえあう生命の輪

目黒区



冬鳥のユリカモメ



夏鳥のツバメ



アサギマダラ
渡りをするチョウ

北の森でヒナを育てる
エゾビタキ



北の森

ワズバキトンボ
長い距離も移動するトンボ

エゾビタキ
スズメ目 ヒゲキ科
大きさ 15cm



長いツバサ

夏鳥たち
(日本で子育てする鳥、冬は南の国に渡ります)
目黒区では春と秋に通過



コマメビタキ
大きさ 13cm



アサギ
大きさ 16cm



キビタキ
大きさ 14cm



サンゴウチヨウ
大きさ 45cm



渡り鳥 長い距離も移動し季節によって住む場所を変える鳥、スズメやトキのように一年中同じ地域にいる鳥を留鳥という。

コマメビタキより強いエゾビタキが実を独占することも。

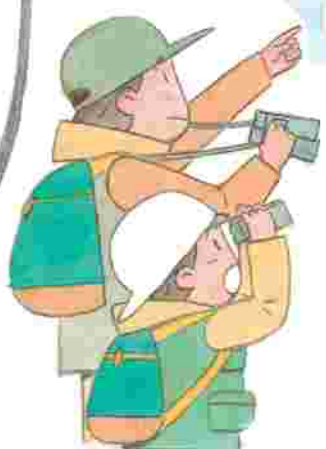


エゾビタキ

コマメビタキ

街の森

旅の途中、ミズキを訪れるエゾビタキ。



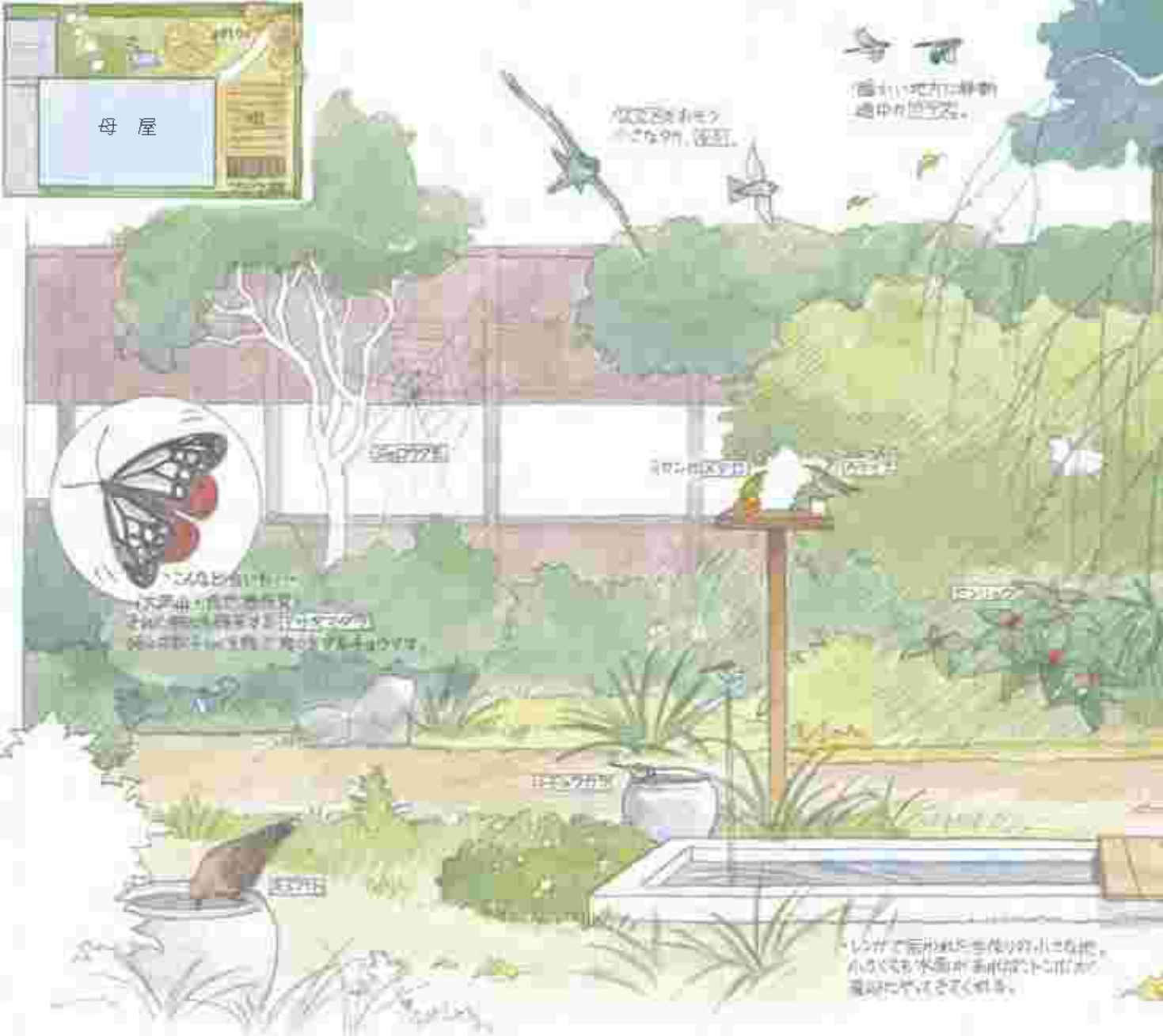
南の森

南の森で越冬するエゾビタキ

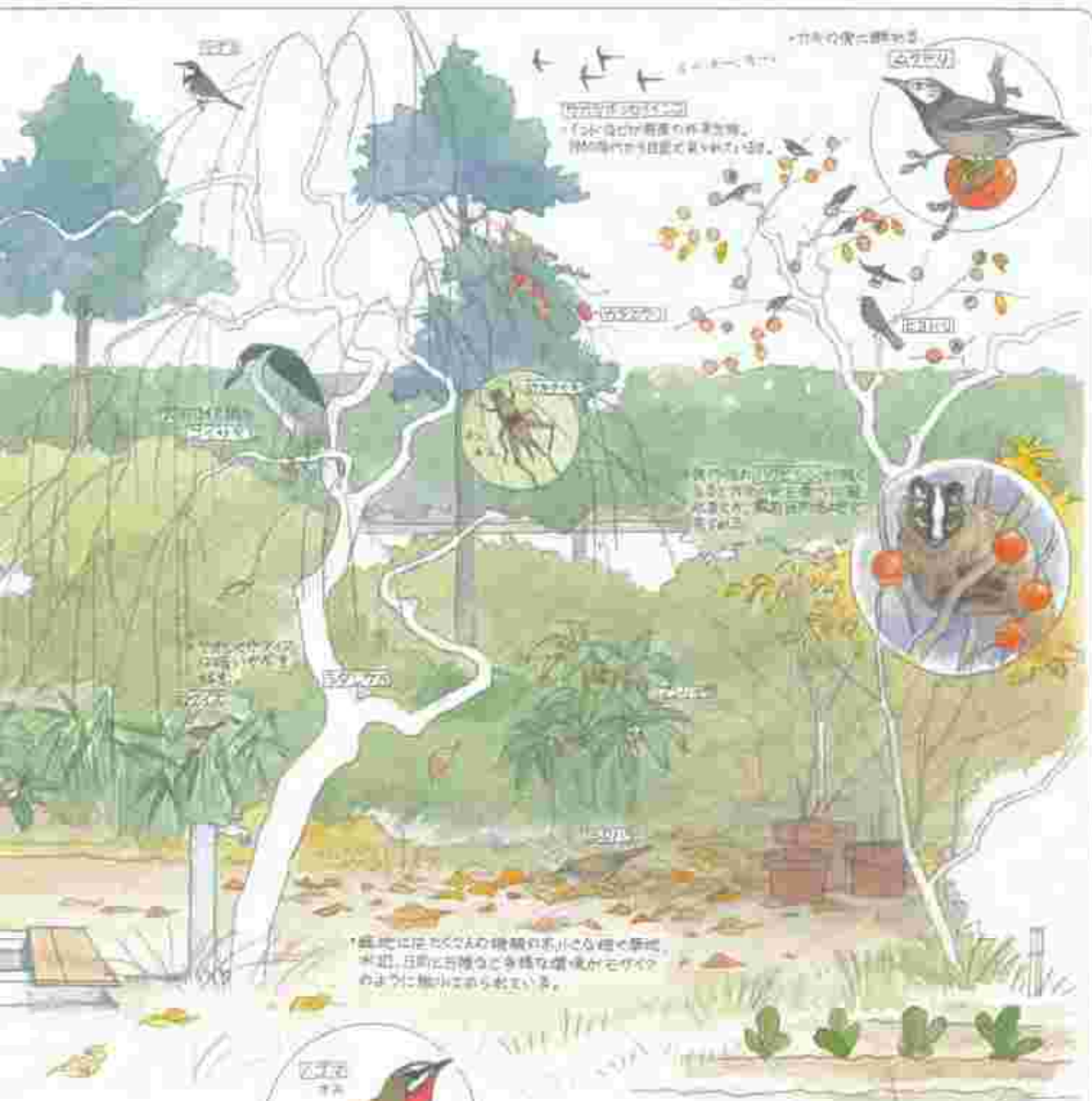
ミズキ ミズキ目 ミズキ科
秋、紫色の実を熟す。樹林の縁などに種が落ちて芽生えているが花も地味で人間からはあまり大切にされない。
しかし、渡り鳥にとっては、旅の途中の大切な栄養源となっている。
北の森と南の森をつなぐ木として、街の森で育つたい。

晩秋
10.11月

・木々が更り色づくころ—— 秋の休場・観音近くの「庭地」。樹と茶を葉とし、そのたまたま
 落ち葉が分解して土に還る自然の庭園。そのような庭園が「庭地」として在野地の中に残されています。
 庭地は、鳥道や野道の目印やサインの役割というふうな役割も果たしている場合があります。



●野鳥のいる風景 庭やベランダは、いきものたちのすみかとなっています



ツグミ

・白木の皮に巣を作る

ムギワドリ

ツグミの巣

ツグミの巣が腐敗した状態。ツグミの巣は腐敗した状態で見られる。

ムギワドリ

ムギワドリ

ツグミの巣

ツグミの巣

ツグミの巣が腐敗した状態。ツグミの巣は腐敗した状態で見られる。



ツグミの巣

ツグミ

ツグミ

ツグミ

・此地には多くのツグミの巣があり、川に落ち、水辺、田舎に落ちると多様な環境がツグミの巣に提供されている。



ツグミ

・ツグミの巣

ツグミの10月10日はツグミの巣の日として、ツグミの巣の日と定められた。ツグミの巣の日として定められた。ツグミの巣の日として定められた。

ツグミの巣の日として定められた。ツグミの巣の日として定められた。ツグミの巣の日として定められた。



・ツグミの巣 (産卵期)

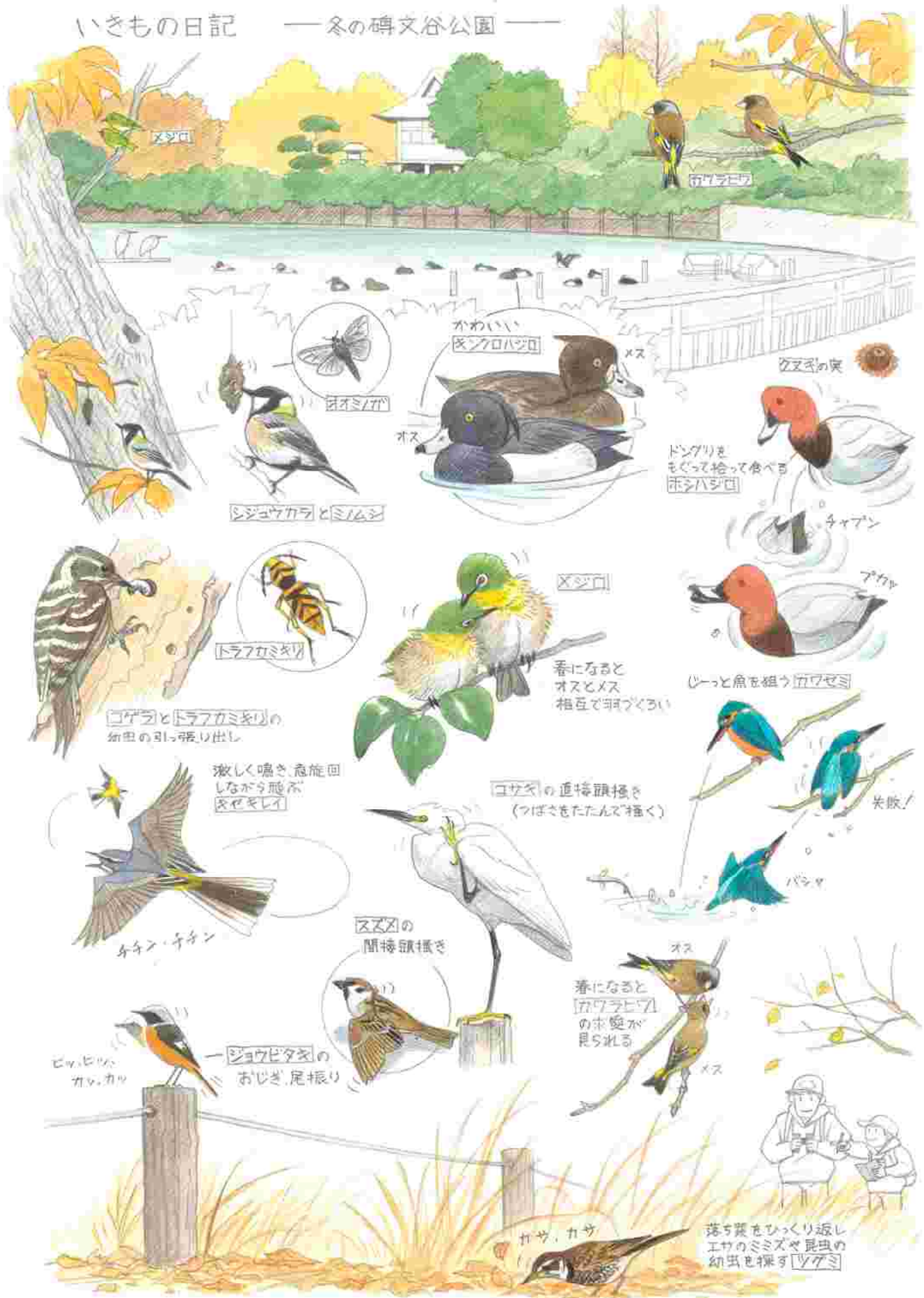
ツグミの巣は産卵期に産卵する。ツグミの巣は産卵期に産卵する。ツグミの巣は産卵期に産卵する。



・この巣のツグミの巣は産卵期に産卵する。

・ツグミの巣の日として定められた。

いきもの日記 — 冬の碑文谷公園 —



●野鳥のいる風景 身近な公園にもいろいろな種類の鳥が訪れます

●目黒区の季節と鳥

春 3月、春になると鳥たちはヒナを育てる繁殖期*に入ります。群れて冬越ししていた鳥もだんだんオスとメス2羽での行動になっていきます。公園や学校の木々では、シジュウカラやメジロなどがさえずり*ます。メジロは、2羽の絆を確かめるように、枝に並んでお互いに羽をつくろい合います。

4月、巣箱で巣作りを始めたシジュウカラ。巣の材料を繰り返し運ぶメスの周囲を、オスが鳴きながら見守ります。キツツキの仲間のコゲラは、くちばしをノミのように使って庭木などの枯れ枝に直径3cmほどの穴を開け、くりぬいた幹の中を巣として卵を産みます。商店街や駅近くのビル街などでは、南の地方から渡ってきたツバメが電線で『土食って虫食って渋い』とさえずります。

5月の連休の頃、普段は見られない旅鳥*たちが、駒場野公園や都立林試の森公園などの森を訪れます。キビタキやオオルリ、サンコウチョウなど鮮やかな色合いや飾り羽を持つものが、繁殖地の北の地方に向かう途中、羽を休めます(P.1)。連休が明けたバードウィークの頃、シジュウカラのヒナが巣立ちます。親鳥は巣立ったヒナ(幼鳥)を安全な樹林の中へ誘導していきます。水辺に飛来するカワセミは、目黒区では年間を通して見られていますが、区内で巣作りをした記録はありません。



ツバメ

夏 6月、庭や公園で、幼鳥のいる群れが目立つようになります。シジュウカラやスズメなどの幼鳥は、巣立った後でもしばらくは大きな鳴き声を出して親に餌をねだります。巣立ち間近のツバメのヒナも、泥と枯れ草でできた巣からはみ出しそうです。目黒川付近や総合庁舎の池などで巣作りをしていたカルガモのヒナも育ち、親鳥の後を泳ぐ姿が見られます。近年、目黒川などの水辺のほか、庭の

池の魚を狙ってアオサギや白鷺のダイサギ、コサギが飛来し、おどろかされることがあります。7月～8月にはほとんどの鳥が繁殖期を終え、十分な餌をとりながら厳しい冬に備えます。

秋 9月中旬になると、冬鳥*の第一陣としてコガモの群れが目黒川船入場に渡って来ます。その後、キンクロハジロやオナガガモなどが川や公園の池に飛来します。この頃のカモ類は、オスもメスと同じような地味な色合いをしています。キビタキなどの旅鳥たちが、今度は南の地方に移動する途中に緑地で羽を休めます。エノキやミズキの実、長旅の大切な栄養源となります。ヒヨドリやムクドリも木の実を食べに集まります。

9月～10月頃、中目黒公園など草地の多い場所では、モズの高鳴きを聞くことがあります。高鳴きは、冬の縄張りを宣言するものといわれています。ジョウビタキやウグイスなどの冬鳥が顔を見せ、11月になるとツグミやアオジ、目黒川にはユリカモメが現れ、目黒区で冬を越す鳥たちが揃います。

冬 12月、落葉した木々に止まるホンセイインコの群れが目立つようになります。また、上空を飛ぶタカ類が見られる頃です。シジュウカラはメジロやコゲラなどとひとつの群れ(混群)になって、冬越しする昆虫などを探して食べます。この群れの中にヤマガラなどを見ることもあります。



イイギリの実を食べるヒヨドリ

1月、厳冬期を迎え、メジロやツグミが頻りに庭に来るようになります。アカハラやシロハラも、庭や公園の樹林で冬越しをします。時にはオオタカやハイタカが狩をする姿が観察されることもあります。やがて、日が延びてくるとウグイスがさえずり出します。最初に鳴くさえずりは『初音』といわれますが、まるで練習をしているかのように下手な鳴き方が多いようです。暖かい日にはシジュウカラやキジバトもさえずり始めます。

2月、厳しい寒さが続きますが、川や池で冬越しをしていたカモ類は夏羽*に変わり、北の地方に戻る準備ができます。ツバキの花には、甘いミツを求めてヒヨドリが飛来します。ツバキの黄色い花粉を顔中につけたヒヨドリは、近づく春の証です。

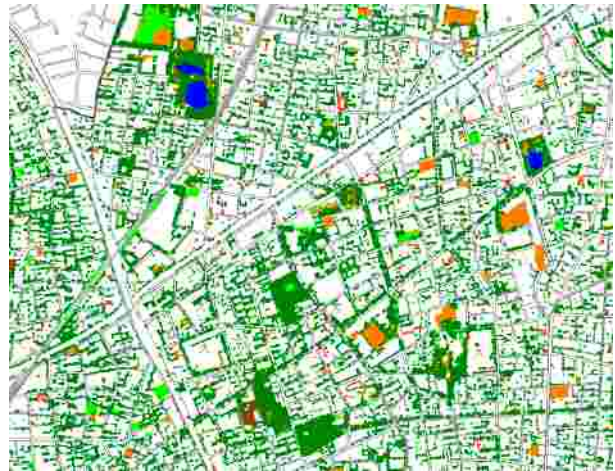


さえずるウグイス

*用語説明→P.6、P.9

●目黒区的环境

目黒区全域に広がる住宅地には、大小さまざまな緑地が見られます。庭木として多種の樹木が植えられた植え込み、花壇や菜園、草地のほか、地面の乾湿や日照の差異など、身近な生物の生息する多様な環境が形成されています。また、鎮守の森と呼ばれ古くから伝わる社寺林や目黒川などの崖線の樹林、公園や大学構内などのまとまった緑地が「みどりの島(緑島)」のように点在し、新しく作られる緑地とともに、大小の「みどり」が「モザイク状」にまち全体に分布していることが、目黒区のみどりの特徴です(図3)。野鳥は、人間生活と関わりながらこのような「モザイク状のみどり」を利用し区内全域に生息しています。



■ 樹木 ■ 草地 ■ 屋上緑地 ■ 農地 ■ 裸地 ■ 水面

図3 目黒区のみどりのようす 碑文谷周辺
(2014年目黒区みどりの実態調査より)

10haを超える緑地には、東京大学(駒場キャンパス:駒場3丁目)、防衛省防衛研究所(中目黒2丁目)、東京工業大学(大岡山キャンパス:大岡山2丁目)がありますが、いずれも区の周辺部に偏在しています。

野鳥の主な観察地は、駒場野公園:旧東京教育大学(駒場2-19)、駒場公園(駒場4-3)、西郷山公園(青葉台2-10)、菅刈公園(青葉台2-11)、東山公園(東山3-24)、目黒天空庭園(大橋1-9)、目黒区総合庁舎屋上目黒十五庭(上目黒2-19)、目黒川船入場(中目黒1-11)、中目黒公園(中目黒2-3)、都立林試の森公園:旧林業試験場(下目黒5-37)、清水池公園(目黒本町2-12)、すずめのお宿緑地公園(碑文谷3-11)、碑文谷公園(碑文谷6-9)、中根公園(中根2-6)、めぐろ区民キャンパス公園(八雲1-1)、倉町公園(八雲5-7)、都立駒沢オリンピック公園(東が丘2)などがあります。(施設の所在地は丁目・番です)

●目黒区の野鳥の概要

目黒区の野鳥の記録種数は、在来種139種、外来等(外来種および飼育種)33種、合計172種です。渡りの区別にみると冬鳥が41種と最も多く、旅鳥36種、留鳥29種と続きます。

区内で繁殖または繁殖の可能性の高い種は、留鳥では、カルガモ、キジバト、ツミ、コゲラ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、夏鳥ではツバメの計16種です。(図4)

渡りの区分(目黒区を基準に区分)

- 留鳥りゅうちゅう : ある地域で一年中見られる鳥(スズメなど)
- 夏鳥なつどり : 春に南の地域から渡って来て繁殖し、秋には南の地域に渡る鳥(ツバメなど)
- 冬鳥ふゆどり : 春から夏にかけて北の地域で繁殖し、秋に渡って来て越冬し、春には北の地域に渡る鳥(ウグイスなど)
- 旅鳥たびどり : 春秋の渡りの途中に見られるもの(キビタキなど)
- 不明 : 目黒区で観察例が極めて少なく(まれ)、冬鳥か旅鳥、迷鳥(本来の分布域から外れて渡って来た鳥)などの区分ができないもの
- 外来等 : 外来種は、外国産の野鳥が、ペットなどとして輸入され、逃げたり放されるなどして野外で見られたもの。飼育種は、日本の野鳥だが、飼育されていたものが、同様に野外で見られたもの



図4 渡りの区別の種数

国(環境省)及び東京都(区部)が指定している保護上重要な種(絶滅のおそれのある種)は、表1のとおりです。目黒区での記録は、観察例が極めて少ないものか、移動の途中に一時的に観察されたものがほとんどです。林試の森公園や駒場野公園等では、例年、越冬するものや渡りの時期に通過するものがみられており、市街地の中で緑地が重要な役割を果たしていると考えられます。また、タカ科のツミは2010年、2013年、2014年に営巣(巣作り)が確認されています(営巣地は公開していません)。